

ワン＆オンリーさが

第52号会報

—日本—赤ちゃんを大切に作る佐賀に!—

発行日 R2.6.20
発行人 林田紀子
編集人 中原由美子・林田紀子
連絡先 佐賀市白山 2-1-12
佐賀商工ビル 7F No.8
佐賀いのちを大切に作る会
TEL 0952-29-8545

エール

佐賀いのちを大切に作る会

代表 林田 紀子

何か打ち込めることがある人は
それに一生懸命打ち込むことが
誰かのがんばりに繋がる

打ち込めるものがないと悩んでいる人も
悩みながらも生きていくことそのものが
誰かの励ましになる

自分のがんばりが誰かのがんばりに
誰かのがんばりが自分のがんばりに

暗闇でこそ輝く星影でありますように

(NHK「あさイチ」に寄せられた

Greenの皆さんからのメッセージ)

全国で緊急事態宣言が解除され、佐賀県は学校
や営業も徐々に再開され、少し明るい光が見えた
気がしますが、皆様、お元気で過ごしてしま
うか。

三月〜五月と外出自粛や休業要請、色々なイベ
ントの中止など、大変な状況の下、色々な影響を
受けられ、今なお不安や困難に直面しておられる
方も多いことと思います。まだまだ予断をゆるさ
ない状況ですが、緊張感と自覚をもって、一歩ず
つ普段の生活に戻っていったらと思います。

冒頭の言葉は、先日、NHK朝ドラ「エール」
の後の「あさイチ」の番組の中で、「エール」の
主題歌『星影のエール』を歌っているGreenの皆
さんが、コロナウイルス感染拡大状況の中で色々
な思いをしながら生きていく私たちに寄せて下
されたメッセージです。ご覧になった方も多
いと思いますが、感動して思わず書きでメモした
ので、正確な言葉ではないと思いますが、このよ
うな意味の言葉だったと思います。

当たり前だと思っていた人と会うこと、集ま
っておしゃべりをしたり食事をしたりするこ
と、良い講演や素敵なコンサートに行くこと等、
色々なことが制限され、ステイホームを楽しみ
ながらもどこか閉塞感を感じる日々の中で、い
のちの会の活動も思うようにできず、悶々とし
た思いが私自身もありました。

いのちの会では、七月四日にかっこちゃんこと
山元加津子先生(元特別支援学校教諭)をお迎えし
て「第二十六回いのちの講演会」を開催する予定
でしたが、この度の事態に鑑み、十一月十五日(日)
に延期することを決定しました。十一月も開催で
きるかどうかわかりませんが、社会情勢を見なが
ら、いつものようにはいかないと思いますが、み
んなで知恵を出し合って、工夫しながら、開催方
向を進めていく予定です。秋の講演会で皆様にお
会いできる事を祈っています。

そんな中、このメッセージを聞いて、本当に
救われる思いがしました。

最後に、山元加津子先生のご文章を紹介しま
す。Greenの皆さんからのメッセージに相通じ
るものがあります。

特に心に深く響いたのは、何か打ち込めるこ
とがある人はもちろん、それに打ち込むことが
誰かの励ましとなるし、何も打ち込むものがな
いと悩んだりしている人も、そうやって生きて
いくことそのもの、存在そのものが誰かの光に
なるのだということでした。

私たちがすべての人は、お互いに、誰かの太
陽であり、雲であり、風であり、虹であるの
です。みんながかかり合って、織り合うよ
うに生きている。そこにかかわっているもの
すべてが、何一つとして欠けてはならない大
切な存在です。だから、どんなことが起こっ
ても、きっと大丈夫——。

☆「自分のがんばりが誰かのがんばりに——」

「すべてはいつかいい日のためにある」

何もできないと無力感を感じたりするけれ
ど、自分が色々悩みながらも元気で生きてい
ることそのものが、誰かの元氣や励まし、エ
ールになる。そして笑顔で挨拶するとか、「元氣で
すか?」と声をかける等、何か一つでも小さな
ことでも、少しでも人を思いやったりすること
が、誰かの力になるんですね。そして、

「すべてはいつかいい日のためにある」
(山元加津子 『4分の1の奇跡』より)
(6/1記)

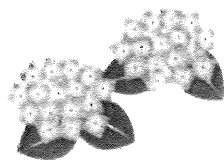
☆「誰かのがんばりが自分のがんばりに」

この時期、最前線でも身を挺して頑張っ
ていている医療従事者等の皆様のがんばりが私
たちの励ましになり、その医療従事者の皆さんに
エールを送るプロジェクトや、自らの会社の減
収を顧みずマスクや医療防護服を贈られたり、
美味しい食事を提供されたりしているニュース
に胸が熱くなり、感謝の思いと共に、大きな感
動と勇気をいただいています。

人間にとって一番大切な人とのつながりを阻
まれるという本当に大変な事態ですが、会えな
くても心はつながり、お互いを思いやり、エ
ールを送りあい、支えあいながら、今できること
に心を込めて、みんなでの難局を乗り越えて
いきたいですね。来たるべき良き日のためこ。



山元 加津子先生



7月4日 開催予定の
「第26回いのちの講演会」
秋に延期!!

日時: 11月15日(日)

13:30~16:00

会場: メートフラザ佐賀

講師: 山元 加津子先生

(元特別支援学校教諭、作家)

☆講演テーマ

「大好きは魔法の言葉~みんな
生まれてきた意味がある」

手紙を通しての講演会案内

佐賀いのちを大切にする云

相談役

原 忠義

学校を退職して四年になりますが、会のブースがある佐賀商工ビルでの会議によく参加させてもらっています。報告事項や検討事項もありますが、会は和やかな雰囲気が進められ、林田代表を中心とする会のスタッフ、事務局の皆さんの思いにふれながら、多忙な中にも心を寄せ合い、必要な準備等に寸暇を惜しんで取り組まれている姿に頭が下がり、使命感と活動息吹を感じ、いのちへの想いが膨らみます。

私は知人に会のことを紹介したり、講演会の案内をする時に、パンフやチラシと一緒に、この会に関わるようになったきっかけや近況等を記載した手紙を添えて送っています。

一昨年の講演会には、元の職場の同僚やボランティアと共にやった方が、それぞれ身近な人とペアで参加をされ、昨年の香葉村先生の講演会では、別件で手紙をさし上げる機会があった佐賀県議にご案内をしたところ、ご夫婦で参加していただきました。

また、以前からアート表現活動を精力的にやっていた美術教師で造形作家の方に、手紙や本を贈ったりして繋がりを大事にしてみました。多岐から「メートプラザ佐賀」の会場に足を運んでいただき、故池田俊正先生の息子さんが会場にいられて挨拶をされ、義理のお母様がたくさんの円プリオ基金を持って、近所の方を連れてご参加いただき、大変嬉しく思いました。

昨年から佐賀新聞に投稿し、何度か掲載してもらっていますが、孫が通っていた幼稚園で親しくなった園児のお母さんが小児科の女医さんで、孫のことを書いた新聞原稿と共に「生命尊重ニュース」の小児外科医、松永ドクターの記事を手紙に添えて送ったら、後でお礼の手紙が届き、「障がいを持っている子に長年かかわっておられる親の気持ちと命の尊さを、自分が母親になってわかるようになり、記事内容が貴重な

指針となりました」と感謝されました。いのちのすばらしさを感じていける日々でありたいと思います。



講演会にご参加下さった造形作家 平江 潔 様の新作

新たな工夫で楽しく美味しく、充実したワン&オンリーの会!!

唐津もみの木ワン&オンリー会 大崎 英美

唐津もみの木ワン&オンリー会では、昨年、新しい内容も試みました。三月〜五月には講演会配布用に基金箱を皆で楽しく作りました。来場の皆様が基金に賛同し持ち帰って頂く願いを込めたのはもちろん、当日会場の準備に少しでも余裕を持つ一助になりたい思いもあってでした。

昨年十月には、以前から「生命尊重ニュース」に賛同されている吉岡さん(味噌作り名人)をお招きし、皆さんと手作り味噌を仕込みました。大豆も糶も塩も全て天然無農薬。吉岡さんから『私たち人間も大自然からの授かりものなので、体が天然の恵みに触れると肌の細胞が喜び安らぐんです。脳内からも癒しのホルモンが分泌され、体も柔らかくなりリラックス効果も!』というお話や、台所から、「母から子へ味噌汁でほっとする心の安定と優しい味の記憶を伝えたい」との提案に、皆さん大きく共感されました。また「命がけの出産をする母の覚悟と共に、自ら生れ出ようとする赤ちゃんの覚悟も尊い!だからどんな人でも意志を持った使命や役割があるんです!」と思春期の子や反抗期を持つ親さんに伝えていきます。』と話されて

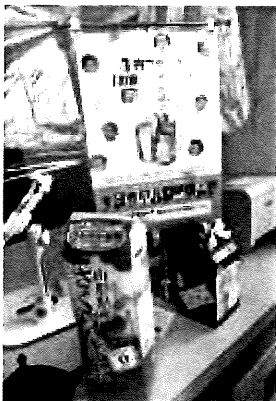
意義深い会になりました。

十一月には派遣講師として、筑後いのちの会より提俊子さんをお迎えして、ある障がい者施設訪問でのご体験からお話を頂きました。障がいがあってもその子の命を親や周囲の者がどう受け止めたか…。「あなたが大切」と温かく迎えられるか否か…。その人の後々の人柄や性格までも違ってくる…。というお話に大きな学びを得ました。障がいがあっても健常者でも「その人」の存在を要らない者のように否定的な言動で育てられた人は犯罪者にもなり得る事も話されました。「ニュース」十一月号の松永先生の内容にもピタリ添ったお話で、とても充実した会になって皆さんと感謝しました。

今年になってからも、昨秋仕込んだお味噌の試食会等、楽しく美味しくワン&オンリーの会を開いています。どうぞ皆様、お気軽にお越し下さいね。



堤さんをお迎えて 味噌づくり



「パン工場 アンクルジヤム」様 円プリオ基金箱(唐津市厳木町)



子どもさん達も一緒に基金箱作り



佐賀市長に「要望書」提出!

お腹の赤ちゃんも大切な佐賀市民です。
新型コロナ禍での妊婦さんとお腹の赤ちゃんを
応援するために

新型コロナウィルス禍の中、円ブリオ基金センターの「妊娠SOSほっとライン」や、私たち佐賀の会には、物心両面の不安を抱える妊婦さんからの相談や、不安や戸惑いの声が寄せられています。私たちはこのような妊婦さんとお腹の赤ちゃんに何かできることはないかとずっと考えてきました。

このような中、全国では、「特別定額給付金」が、基準日である四月二十七日の後に生まれた赤ちゃんは給付の対象外であることから、基準日以降に生まれた赤ちゃんについても、「特別給付金」等、市や町で独自の支援策をとっている自治体が増えていることがわかりました。

お腹の赤ちゃんも一人の人間であり、未来を担う大切な佐賀県民・市民です。

この観点から私たちも、佐賀県・市町においても、コロナ禍における妊婦さんとお腹の赤ちゃんを応援する独自の支援を要望していこうということになり、六月十八日に、佐賀市長様に「要望書」を直接手渡しさせて頂くことができ、感謝の思いで一杯です。

コロナウィルス対策に佐賀市の先頭に立って日夜ご尽力いただいている市長様は、「お腹の赤ちゃん、胎児であっても思いは一つ。他の生活支援、経済支援もあり、財源確保の問題もありますが、皆さんの思い、要望を受けて検討します」とお話しいただきました。

この日は、いのちの会スタッフ五名で伺いましたが、「コロナ期に出産をされたお母さん、赤ちゃんだからこそ“生まれてくれてありがとう”というエールを佐賀市から届けてほしい」「血の通った温かい応援を」と、それぞれに思いの丈を伝えさせていただき、その思いは市長様や行政の皆様が届いたように思います。

この要望書を直接市長様にお渡しすることが実現したのは、会の活動や要望の趣旨に賛同頂いた議員の皆様のお力添えがあり、改めて感謝申し上げます。

佐賀県にも「要望書」は送らせていただいております。

ですが、今後県や他の市町へも働きかけを進めていきたいと思っています。

佐賀市長様に直接手渡し



皆でお腹の赤ちゃんへの思いを語りました

この度の要望を考えている中で、コロナ禍の五月に七人目の赤ちゃんが誕生された七人のお子さんのパパにメッセージを寄せていただきました。



7人のお子さんの宝ものかけがえのない

多子家庭育児で逡巡すること

—安心して子どもを生み育てられる社会を願って—

佐賀市 林 恵太郎

我が家では五月に第七子が誕生。育てることは楽しく、授かれば授かるだけ育てていくつもりです。

私達はすでに様々な制度を利用して、支援も受けています。普通の育児を行うにあたり、経済的に困窮する訳ではありませんが、核家族で住宅ローンもかかえていますので支援政策の有無が子育て環境に大きく影響します。コロナ禍の中で、多子家庭の立場から、費用対効果の高いサービスの実現のため、私の意見を書かせていただきます。

この度の新型コロナウィルス特別定額給付金には大変感謝しています。しかしこれは本年10月31日が基準日ですので、五月に生まれた7人目の子供は対象外となりました。この基準日は悲劇です。支給が決定する前の妊婦サークルで知り合った方は四月二十八日に帝王切開し、1日違いで支給対象外。基準日を過

ぎても、コロナ禍を同じく過ごした妊婦さんにも給付金や何らかの支援があつてよいのではないかと考えます。(妊婦さんとお腹の赤ちゃんについては今年度末(令和三年三月三十一日)までとしてもよかったですのではないかと思います。)

政府で検討中の百万円の誕生祝い金も同じです。生まれた日を区切るのではなく、何歳までの誕生月まで毎月〇万円支給するなど息の長い支援こそが子育て環境の安心を生むのではないかと思います。

また今回の出産に当たり、新生児は重篤ではありませんがZIC入院となりました。母乳搬送が必要でしたが、私は仕事、妻は産後で運転できず、病院側の提案はタクシー利用でした。往復五千円のタクシー代は簡単に払える額ではありません。双子・三つ子など多胎児支援のタクシー利用券(二万円相当)が佐賀県から助成されていますが、タクシー利用券配布については、コロナ禍も含め、日常的にももう少し幅を持たせた支援が必要ではないでしょうか。

コロナに限らず、冬のインフルエンザの流行。毎家族の誰かが感染し、家庭内隔離を行い、あと少しで完治するという時に兄弟にうつす。ほぼ一月の間、世話をする妻は外出できない。私は仕事の関係上、職場で予防接種を受けますが、毎年妻子は受けていません。妻に加え二回接種が必要な子供七人の予防接種費用は、ひと月の食費を上回る金額。公的医療保険は予防には使えないのは承知の上ですが、季節性インフルエンザには、別の補助があつてよいのではないのでしょうか。コロナウィルスワクチンが開発された場合も同様です。

他にも、職場の扶養手当がなくとも済むような児童手当の拡充と対象年限の拡大、就学援助の審査にあたり多子家庭向けの計算方法の導入、無料か廉価で利用できる家事代行サービスの提供等々、検討頂きたいことはたくさんあります。いずれも財政支出を伴うものですが、給付拡大が実現すればその分、支援を受けた次世代がそのつけを払うのを承知しています。

しかし、子育ての現場の声を少しでも社会や行政に発信し、少しずつでも、子どもを安心して生み育てられる政策が実現し、我が家のような子どくさんの幸せな家庭が増えていくことを願っています。

★「秋のいのちのセミナー」報告

いのちの始まりを大切に作る佐賀のまちづくり

とき／令和元年 十一月三十日(土)

ところ／佐賀市立図書館 大集会室

講師／熊谷孝子さん

(円ブリオ大分代表・くまがい産婦人科 栄養士)

佐賀いのちを大切に作る会

副代表 中原 由美子

晩秋のお天気にも恵まれた昨年十一月三十日(土)、「秋のいのちのセミナー」を開催しました。

セミナーには、日頃よりいのちへの温かい思いを持って下さっている議員の皆様、行政の皆様はじめ、四十二名の皆様にご参加いただきました。

セミナー開催に向けて、かねてより「佐賀いのちを大切に作る会」の活動に共感いただきいただきました嬉野市の村上市長様を事前に訪問させていただきました。

ご自身も子育て真っ最中の村上市長様は子育て支援にも積極的に取り組まれており、その素晴らしい取り組みの中に「お腹の赤ちゃん」をみんな喜んで迎えるまちづくりのご提案をさせていただきました。セミナー当日、市長様は他の公務のためご出席がかなわなかったのですが、子育て未来課の副課長様にご参加いただきました。

セミナーの講師は、神埼市のご出身で佐賀にも縁の深い、円ブリオ大分代表の熊谷孝子先生(くまがい産婦人科 栄養士)。先生のお話を通して、ご自身のご病気や手術などの困難を乗り越えて、妊婦さんや出産後のママたちに親身になって寄り添い、行政や諸々の機関と連携しながら、お世話されている生き方に本当に感動しました。その熊谷先生の生き方の芯に、助産師だった明治生まれのおばあ様の生きざまが刻まれ、生まれて来る赤ちゃんとお母さんのために、一生懸命世話をやいてやりたいという素晴らしい志が培われていらつしやるのだと感じました。

熊谷先生のように、妊婦さんやママたちに深く、力強く寄り添っていくことはなかなかできないけれど、私も、子どもたちにも、お母さんたちにも「そうよね」

「素晴らしいね」「そのままがいいよ」「生きているだけで奇跡だよ」と少しでも、うなづき、共感するところからしていきたいと思いました。

先生のお話の後、「いのちの始まりを大切に作る佐賀のまちづくり」をテーマに懇談の時間を持ち、熊谷先生のお話の感想も交えながら、赤ちゃんの誕生をみんな喜び合い、お腹の赤ちゃんとお母さんを温かく応援する佐賀のまちづくりについて、議員の皆様、子育て支援に関わっておられる行政の皆様、助産師さん園長先生、お母さん方と一緒に、色々なアイデアも出し合い、充実した意見交換、懇談の時間となりました。いのちの始まりを大切に作る佐賀へ、一歩前進を感じた晩秋のひとつときでした。

参加者の声

★熊谷孝子先生のお話を聞いて

○私も一女三男に恵まれました、まだまだ至らぬ毎日くり返しております。子育ては喜びと悲しみ苦しみと反省の日々です。ただ身ももった命はどんなことがあっても守りたい、守っていきたくて思っております。応援しています。

○お腹の赤ちゃんが生まれる前からしっかり支援体制を整えられるよう相談にのられ、行動し、誕生後もつながって支える活動をされていること、すばらしいと思いました。色々困難な状況にありながらも授かった命を大切に育て産みたいと思う女性とお腹の赤ちゃんを支える円ブリオ基金のことをもっともっと多くの人達に広げていけたらいいと思います。

○子供には精一杯の愛情を注ぐことが一番の教育だと感じました。この世には必要のない命はなく、子供達みんなに愛情をそそいであげることが大切だと思います。

★「いのちの始まりを大切に作る佐賀のまちづくり」の取り組みについてのアイデア、「意見

○県内の生まれた赤ちゃんの数をテレビ等で発表する取り組み、いいと思います。

○まだ若く出産ができない女性の相談窓口の設置と行政との密接な関係の構築。

○どのまちにも、親子や妊婦さんが気軽に集えるような場所ができると思います。

○私は行政の窓口で助産制度の担当をしています。先生がお話し下さった 誰かが支えることができたら」という思いをもって、相談員みんな、お母さんやお子さんと接していけたらと思います。

★7月13日「生命尊重の日」の制定について

○もっと身近なことは、わかりやすいキャッチフレーズで考えたいかがでしょうか。例えば「大切な命を守る日」「大切な命を尊ぶ日」「大切な命を応援する日」「命を敬う日」とか。

○賛成です。なぜ7月13日なのかを含めて、知らせて、運動していきたいですね。

○命のことを考える機会はなかなかないと思うので、一日「生命尊重の日」を制定し、命のことを考えるというのは、すくすくいいことだと思います。



先生を囲んで



熊谷孝子 先生

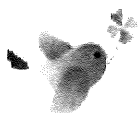


熱心に聴き入る参加者の皆さん

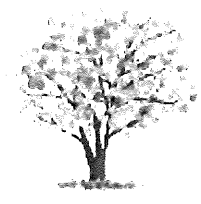


千住英正 相談役
開会の挨拶

★円プリオ基金へのご協力、ありがとうございます！！
 H31年4月～R2年6月15日(順不同・敬称略)



原口 佳子	656口	藤井整形外科病院	2,945口	若宮 真奈美	814口
戸田 敏子	314口	いとし子の家 志岐奈穂美	430口	古川 マス子	580口
唐津市役所子育て支援課	3,460口	濱手 美貴子	1,312口	なかなかみクリニック	3,057口
唐津市久里公民館	1,484口	ぶんぶんTV	2,543口	TSUTAYA積文館佐大通り店	3,675口
豊メガネ	288口	内田 順子	1,026口	国際ソロプチミスト佐賀有明	6,651口
下平 しずえ	686口	フローリストかわさき	3,000口	高木 由紀子	822口
富田 美也紀	353口	持永 良子	1,331口	立正佼成会 佐賀教会	3,946口
野崎 敦子	394口	古田 悦子	886口	太田 恒子	1,249口
高橋 清子	708口	後藤 政子	221口	佐賀県立武雄高校	955口
岩田 廣子	2,368口	奥菌 律子	884口	植田産婦人科	855口
山下 志乃恵	497口	手塚 真知子	278口	太田 記代子	390口
唐津市久里公民館	62口	池田 みき	77口	速水 清美	1,346口
大崎 英美	1,180口	西原 比佐子	1,000口	小寺 綾子	577口
小松 まり子	752口	飯盛 みどり	1,000口	古賀 ゆかり	2,043口
唐津カトリック幼稚園	1,422口	大島 ひろみ	815口	野田 ナツ子	5,169口
野中 ふみえ	129口	生田 まき子	247口	池田 浩	2,639口
今村 豊	2,406口	力武 順子	6,052口	原 忠義	569口
波戸内 秀子	1,364口	北島 美子	274口	高橋 清子	667口
唐津市鬼塚公民館	312口	蒲原	235口	佐賀大学医学部付属病院内セブンイレブン店	1,100口
大崎 英美	450口	野田 ナツ子	3,624口	松江 美歩	426口
川原 真理	493口	川副 マキ子	1,346口	宗像 順子	20,068口
野田 玲子	599口	小笠原 清美	374口	東島 アイ子	2,168口
豊メガネ	293口	梅木 弘子・中牟田 静子	937口	澤野 由美子	589口
秀島かずえ	317口	末吉 成子	398口	立正佼成会 佐賀教会	1,343口
緒方 広恵	1,000口	八田 洋子	729口	古川 博子	5,714口
村崎 和子	111口	馬渡 和子	595口	内川 清子	1,145口
中原 喜佐子	635口	村岡 利江	803口	佐賀市役所 子ども家庭課	1,508口
中島 里美	850口	NPO法人 poco a bocca	122口	佐賀保育園	3,835口
大崎 英美	1,550口	鶴田 恵子	771口	太田 記代子	2,784口
小松 まり子	194口	金子 美智子	600口	木原 みち子	818口
石倉 泰子	249口	鷗池 千佐子	960口	佐賀市市民活動プラザ	228口
菊川 れい子	1,049口	平山 ふみ子	888口	毛利 陽子	631口
野田 玲子	345口	藤崎 久美子	4,921口	一ノ瀬 美智子	678口
戸田 敏子	701口	田久保 とし子	1,000口	稿葉ユキ音楽事務所	13,529口
豊メガネ	262口	内川 清子	2,816口	中野 光江	10,748口
岩田 悦子	577口	久富 華那	122口	中野 恵子	1,001口
大崎 英美	1,152口	古賀 菜々子	9口	一ノ瀬 美智子	896口
やわらぎ整骨院いわや	981口	原 忠義	382口	毛利 陽子	2,430口
大草 タカ子	367口	井手 信子	120口	野田 ナツ子	3,856口
実践倫理宏正会 吉松紀代子	1,575口	ベーカリー・アングル・ジャム	2,922口	高橋 清子	514口
平川 詔子	516口	もみの木ワン&オンリーの会	6,293口	満岡 若子	2,000口
大草 幹夫	434口	大崎 英美	1,152口	ikoeチャリティー企画	7,677口
やわらぎ整骨院いわや	5,854口	西山 巳知子	616口	荒木 美千子(dig諸富本店)	5,370口
豊メガネ	211口	佐賀市役所久保田支所	2,472口	今村 純子	848口
横小路 澄子	901口	栄玉本庄店(お客様)	4,605口	原 忠義	384口
岩田 廣子	2,146口	村岡 利江	823口	匿名	2,013口
中島 里美	303口			金子 祐子	259口
村崎 和子	122口			堤 いと代	1,761口
厳木町健康クラブ薬局	237口			浦川 富美男	188口
相知町中園公民館	391口			澤野 由美子	375口
<唐津市相知町婦人会>					
青木 紀子	445口	ち		★円プリオ基金PR自動販売機(H31.1～R1.12)	
原口 美代子	213口			・ネオス(株)	
みね かずこ	428口			(有)アラキ dig諸富本店	2,467口
中武 友子	953口			センヤイチバ	5,872口
匿名	276口			計	8,339口
久我 裕子	270口			・コカ・コーラボトラーズジャパン(株)	
山口 聖子	104口	★国際ソロプチミスト佐賀有明	5,000口	堀上車体	6,595口
佐賀いのちを大切に作る会		(支援金贈呈式にていただいた)			
第25回講演会カンパ金より	4,021口	ご支援金より5000円を円プリオ基金に			
(来場者の皆様)		あてさせていただきます。感謝)			



★会員のご協力、ご寄附、誠にありがとうございます。

H31年4月～R2年6月15日(順不同・敬称略)



<維持会員>

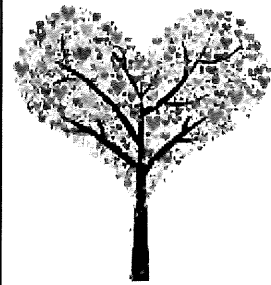
堤 昭一郎(つつみクリニック)
 千住 英正(アンジェルクス)
 古賀 益子(こが内科子どもクリニック)
 藤井 利雄(藤井整形外科)
 野見山 里美
 大隈 良成(大隈レディースクリニック)
 鍵山 稔明
 中村 千恵子
 香上 憲造
 大崎 英美
 水町 由美子
 喜多 麗子
 中村 千恵子
 林田 紀子

<一般会員>

古川 津代子
 鷲崎 隆司
 小嶋 倫子
 青木 一功
 小柳 三津子
 大井 あけみ
 満岡 聰
 原口 照代
 白倉 和子
 太田 記代子
 野田 ナツ子
 満岡 敬子
 岡田 ひとみ
 西久保 弘克
 指宿 淳子(いとし子の家)
 太田 恒子
 中島 里美
 溝内 善己
 江島 俊雄(無量院)
 加藤 元章
 福島 美佐子
 北川 薫
 北川 和江
 真崎 久代(海童保育園)
 中尾 知佳子
 森山 隆子
 真崎 ミツル
 林 敬子
 宮崎 法幸(宮崎薬局 鹿島店)
 木原 みち子
 古川 絹子
 中牟田 静子
 西村 千枝子
 戸田 敏子
 古川 洋子

八尋 典子
 鶴田 恵子
 寺尾 博子
 黒木 由美
 荒木 美千子
 【(有)アラキ ディッグ諸富店】

梶原 玲子
 宗像 順子
 古川 マス子
 井崎 弘之
 波戸内 秀子
 蒲原 幸子
 吉住 潤子
 橋本 和美
 川原 みさ子
 毛利 陽子
 中島 則行(日伸不動産)
 原 忠義
 延塚 秀子
 中里 宣子
 馬郡 弘貴
 野田 ナツ子
 柿木 智佐子
 江島 佐知子
 寺野 幸子
 青木 一功
 江頭 みどり
 内野 秋子(内野産婦人科)
 吉富 和子
 八尋 典子
 浦川 富美男



★国際ソロプチミスト佐賀有明様より、今年もお心のごもったご支援金を頂きました。誠にありがとうございました。



<賛助会員>

内川 清子
 大石 真理子
 古賀 亜伊子
 堤 正博
 片淵 知津
 大串 千和子
 本村 満江
 与子田 孝治
 柳川 英明
 廣瀬 宣之
 (外町レディースクリニック)
 野中 ふみえ
 久富 文江
 中島 則行(日信不動産)
 手島 富子
 中村 由美子
 渡邊 美智子
 奥江 慎吾
 松本 幸
 飯盛 千鶴
 藤川 ハツエ
 徳久 房美
 片淵 邦子
 田中 國代
 原口 佳子
 淵上 ふみえ
 川村 久美子
 田代 賢治(田代歯科医院)
 村岡 利江
 上野 敦子
 小笠原 清美
 樋口 文子
 井上 志緒里
 林 敬子
 関 孝子
 平尾 節子
 彌吉 路
 小林 詠子
 米光 光子
 鶴田 源貞
 鶴田 昭美
 山口 麻貴
 深川 ゆきみ
 福野 明子
 清水 宣行
 中山 幸子
 相良 貴子
 大草 幹夫
 蘭 敏子
 米光 光子
 池田 さおり
 藤田 嘉子
 高取 千恵子

<寄付>

上田 牧子
 眞子 博孝
 池田 浩
 堤 喜矩子
 北川 薫
 北川 和江
 中尾 知佳子
 福地 真紀子
 水町 由美子
 今村 純子
 岩田 悦子
 稿葉ユキ音楽事務所
 中村 泰子
 竹並 和國
 古川 京子
 村岡 義彦
 村岡 利江
 林田 紀子

★第25回いのちの講演会
 ご支援ありがとうございました。

<講演会支援金>

内川 清子
 古賀 亜伊子
 黒木 由美
 梶原 玲子
 浅山 美由紀
 波戸内 秀子
 八尋 典子
 野中 ふみえ
 福地 真紀子
 森 綾子
 橋本 和美
 中島 則行(日伸不動産)
 岸川 緒子
 吉武 悦子
 松本 幸
 飯盛 千鶴
 外町レディースクリニック
 (廣瀬 宣之)
 水町 由美子
 喜多 麗子
 原 忠義
 野田 ナツ子
 林 敬子
 こが内科子どもクリニック
 (古賀 益子)
 香上 憲造
 大崎 英美

★編集後記★

○3月以降のコロナの中で出産前の妊婦さんには、具合悪くても病院に行けない、立ち合い出産が制限されたり、産後の赤ちゃんを見に行けない家族など、沢山の不安や動揺があられたことと思います。コロナ期に出産をされたお母さん、赤ちゃんだからこそ「生まれてくれてありがとう」というエールを行政から届けて欲しいと願っています。そのお母さん方や赤ちゃんの声の代弁者として、6月18日に佐賀いのちの会メンバー5名と一緒に佐賀市長様に要望書を直接手渡すことができました。活動はまだ続きます。(中原)

○「会報 52号」をようやくお届けできる運びとなりました。会報作成の過程で、世の中は思いもよらぬコロナの状況となり、講演会の延期、ワン&オンリーの会の休会等々、いのちの会の活動も大きく変わりました。会員の皆様のご健康を祈りつつ、今「会報」を通して皆様に少しでもエールを送ることができたらと思います。(林田)